

# 百人一首 手作りかるた（印刷用）

こどもと僕ブログ <https://torutoru-blog.com/>

## つくりかた

---

1. このPDFを、A4の紙に印刷します（倍率は「100%」または「実際のサイズ」）。厚めの紙だと、遊びやすくなります。
2. 2ページ目からが「取り札」（下の句）、そのあとが「読み札」（上の句）です。
3. 点線に沿って、はさみやカッターで切ります。

## あそびかた

---

- **取り札**を床や机にならべます。読む人は**読み札**を1枚ずつ読み、ほかの人は下の句の札を取ります。
- 慣れないうちは、取り札を20～30枚だけ使うと遊びやすいです。
- 歴史的仮名づかい（「いほ」「をの」など）で書いてあります。ふだんの読み方は、読み札のひらがなをご覧ください。

## ご利用について

---

ご家庭・学校・習い事などでの利用は自由です。このPDFそのものの転載・再配布・販売・商用利用はご遠慮ください。SNSでのご紹介は大歓迎です。

本格的に遊びたいときは、かるたセットもおすすすめです。

ながながしよを  
ひとりかもねむ

ころもほすてふ  
あまのかぐやま

わがころもでは  
つゆにぬれつつ

しろきをみれば  
よぞふけにける

こゑきくときぞ  
あきはかなしき

ふじのたかねに  
ゆきはふりつつ

わがみよにふる  
ながめせしまに

よをうちやまと  
ひとはいふなり

みかさのやまに  
いでしつきかも

をとめのすがた  
しばしとどめむ

ひとにはつげよ  
あまのつりぶね

しるもしらぬも  
あふさかのせき

13

こひぞつもりて  
ふちとなりぬる

14

みだれそめにし  
われならなくに

15

わがころもでに  
ゆきはふりつつ

16

まつとしきかば  
いまかへりこむ

17

からくれなるに  
みづくくるとは

18

ゆめのかよひぢ  
ひとめよくらむ

19

あはでこのよを  
すぐしてよとや

20

みをつくしても  
あはむとぞおもふ

21

ありあけのつきを  
まちいでつるかな

22

むべやまかぜを  
あらしといふらむ

23

わがみひとつの  
あきにはあらねど

24

もみぢのにしき  
かみのまにまに

25

ひとにしられで  
くるよしもがな

26

いまひとたびの  
みゆきまたなむ

27

いつみきとてか  
こひしかるらむ

28

ひとめもくさも  
かれぬとおもへば

29

おきまどはせる  
しらぎくのはな

30

あかつきばかり  
うきものはなし

31

よしののさとに  
ふれるしらゆき

32

ながれもあへぬ  
もみぢなりけり

33

しづごころなく  
はなのちるらむ

34

まつもむかしの  
ともならなくに

35

はなぞむかしの  
かににほひける

36

くものいづこに  
つきやどるらむ

37

つらぬきとめぬ  
たまぞちりける

38

ひとのいのちの  
をしくもあるかな

39

あまりてなどか  
ひとのこひしき

40

ものやおもふと  
ひとのとふまで

41

ひとしれずこそ  
おもひそめしか

42

すゑのまつやま  
なみこさじとは

43

むかしはものを  
おもはざりけり

44

ひとをもみをも  
うらみざらまし

45

みのいたづらに  
なりぬべきかな

46

ゆくへもしらぬ  
こひのみちかな

47

ひとこそみえね  
あきはきにけり

48

くだけてものを  
おもふころかな

49

ひるはきえつつ  
ものをこそおもへ

50

ながくもがなと  
おもひけるかな

51

さしもしらじな  
もゆるおもひを

52

なほうらめしき  
あさばらけかな

53

いかにひさしき  
ものとかはしる

54

けふをかぎりの  
いのちともがな

55

なこそながれて  
なほきこえけれ

56

いまひとたびの  
あふこともがな

57

くもがくれにし  
よはのつきかな

58

いでそよひとを  
わすれやはする

59

かたぶくまでの  
つきをみしかな

60

まだふみもみず  
あまのはしだて

61

けふここのへに  
にほひぬるかな

62

よにあふさかの  
せきはゆるさじ

63

ひとづてならで  
いふよしもがな

64

あらはれわたる  
せぜのあじろぎ

65

こひにくちなむ  
なこそをしけれ

66

はなよりほかに  
しるひともなし

67

かひなくたたむ  
なこそをしけれ

68

こひしかるべき  
よはのつきかな

69

たつたのかはの  
にしきなりけり

70

いづくもおなじ  
あきのゆふぐれ

71

あしのまろやに  
あきかぜぞふく

72

かけじやそでの  
ぬれもこそすれ

73

とやまのかすみ  
たたずもあらなむ

74

はげしかれとは  
いのらぬものを

75

あはれことしの  
あきもいぬめり

76

くもゐにまがふ  
おきつしらなみ

77

われてもすゑに  
あはむとぞおもふ

78

いくよねざめぬ  
すまのせきもり

79

もれいづるつきの  
かげのさやけさ

80

みだれてけさは  
ものをこそおもへ

81

ただありあけの  
つきぞのこれる

82

うきにたへぬは  
なみだなりけり

83

やまのおくにも  
しかぞなくなる

84

うしとみしよぞ  
いまはこひしき

85

ねやのひまさへ  
つれなかりけり

86

かこちがほなる  
わがなみだかな

87

きりたちのぼる  
あきのゆふぐれ

88

みをつくしてや  
こひわたるべき

89

しのぶることの  
よわりもぞする

90

ぬれにぞぬれし  
いろはかはらず

91

ころもかたしき  
ひとりかもねむ

92

ひとこそしらね  
かわくまもなし

93

あまのをぶねの  
つなでかなしも

94

ふるさとさむく  
ころもうつなり

95

わがたつそまに  
すみぞめのそで

96

ふりゆくものは  
わがみなりけり

97

やくやもしほの  
みもこがれつつ

98

みそぎぞなつの  
しるしなりける

99

よをおもふゆゑに  
ものおもふみは

100

なほあまりある  
むかしなりけり

1

天智天皇

秋の田のかりほの庵の苫を荒み

あきのたの かりほのいほの とまをあらみ

2

持統天皇

春すぎて夏来にけらし白たへの

はるすぎて なつきにけらし しろたへの

3

柿本人麻呂

あしびきの山鳥の尾のしだり尾の

あしびきの やまどりのをの しだりをの

4

山部赤人

田子の浦にうちいでて見れば白たへの

たごのうらに うちいでてみれば しろたへの

5

猿丸太夫

奥山にもみぢ踏み分け鳴く鹿の

おくやまに もみぢふみわけ なくしかの

6

中納言家持

かささぎの渡せる橋に置く霜の

かささぎの わたせるはしに おくしもの

7

安倍仲麻呂

あまの原ふりさけ見ればかすがなる

あまのはら ふりさけみれば かすがなる

8

喜撰法師

わが庵は都のたつみしかぞ住む

わがいほは みやこのたつみ しかぞすむ

9

小野小町

花の色はうつりにけりないたづらに

はなのいろは うつりにけりないたづらに

10

蝉丸

これやこの行くも帰るも別れては

これやこの ゆくもかへるも わかれては

11

参議篁

わたのはら八十島かけて漕ぎいでぬ

わたのはら やそしまかけて こぎいでぬと

12

僧正遍昭

あまつ風雲のかよひ路吹きとぢよ

あまつかぜ くものかよひぢ ふきとぢよ

13

陽成院

つくばねの峰より落つるみなの川

つくばねの みねよりおつる みなのがは

14

河原左大臣

みちのくの忍ぶもぢずり誰ゆゑに

みちのくの しのぶもぢずり たれゆゑに

15

光孝天皇

きみがため春の野にいでて若菜摘む

きみがため はるののにいでて わかなつむ

16

中納言行平

たち別れいなばの山の峰に生ふる

たちわかれ いなばのやまの みねにおふる

17

在原業平朝臣

ちはやぶる神代も聞かず竜田川

ちはやぶる かみよもきかず たつたがは

18

藤原敏行朝臣

すみの江の岸による波よるさへや

すみのえの きしによるなみ よるさへや

19

伊勢

なにはがた短きあしのふしのまも

なにはがた みじかきあしの ふしのまも

20

元良親王

わびぬれば今はた同じなにはなる

わびぬれば いまはたおなじ なにはなる

21

素性法師

いま来むといひしばかりに長月の

いまこむと いひしばかりに ながつきの

22

文屋康秀

ふくからに秋の草木のしをるれば

ふくからに あきのくさきの しをるれば

23

大江千里

月見ればちぢにものこそ悲しけれ

つきみれば ちぢにものこそ かなしけれ

24

菅家

このたびはぬさも取りあへずたむけ山

このたびは ぬさもとりあへず たむけやま

25

三条右大臣

名にし負はば逢坂山のさねかづら

なにしおはば あふさかやまの さねかづら

26

貞信公

小倉山峰のもみぢ葉心あらば

をぐらやま みねのもみぢば ころあらば

27

中納言兼輔

みかの原わきて流るる泉川

みかのはら わきてながるる いづみがは

28

源宗干朝臣

山里は冬ぞ寂しさまさりける

やまざとは ふゆぞさびしさ まさりける

29

凡河内躬恒

ころろあてに折らばや折らむ初霜の

ころろあてに をらばやをらむ はつしもの

30

壬生忠岑

有明のつれなく見えし別れより

ありあけの つれなくみえし わかれより

31

坂上是則

あさぼらけ有明の月と見るまでに

あさぼらけ ありあけのつきと みるまでに

32

春道列樹

山川に風のかけたるしがらみは

やまがはに かぜのかけたる しがらみは

33

紀友則

ひさかたの光のどけき春の日に

ひさかたの ひかりのどけき はるのひに

34

藤原興風

たれをかも知る人にせむ高砂の

たれをかも しるひとにせむ たかさごの

35

紀貫之

人はいさ心も知らずふる里は

ひとはいさ ころもしらず ふるさとは

36

清原深養父

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを

なつのよは まだよひながら あけぬるを

37

文屋朝康

白露に風の吹きしく秋の野は

しらつゆに かぜのふきしく あきののは

38

右近

忘らるる身をば思はずちかひてし

わすらるる みをばおもはず ちかひてし

39

参議等

浅茅生の小野のしの原忍ぶれど

あさぢふの をののしのはら しのぶれど

40

平兼盛

しのぶれど色にいでにけりわが恋は

しのぶれど いろにいでにけり わがこひは

41

壬生忠見

恋すてふわが名はまだき立ちにけり

こひすてふ わがなはまだき たちにけり

42

清原元輔

ちぎりきなかたみに袖をしぼりつつ

ちぎりきな かたみにそでを しぼりつつ

43

中納言敦忠

あひ見ての後の心にくらぶれば

あひみての のちのころに くらぶれば

44

中納言朝忠

あふことの絶えてしなくばなかなか

あふことの たえてしなくば なかなか

45

謙徳公

あはれとも言ふべき人は思ほえて

あはれとも いふべきひとは おもほえて

46

曾禰好忠

ゆらのとを渡る舟人かぢを絶え

ゆらのとを わたるふなびと かぢをたえ

47

恵慶法師

八重むぐら茂れるやどの寂しきに

やへむぐら しげれるやどの さびしきに

48

源重之

風をいたみ岩打つ波のおのれのみ

かぜをいたみ いはうつなみの おのれのみ

49

大中臣能宣朝臣

み垣もり衛士のたく火の夜はもえ

みかきもり 糸じのたくひの よるはもえ

50

藤原義孝

きみがため惜しからざりし命さへ

きみがためをしからざりし いのちさへ

51

藤原実方朝臣

かくとだにえやはいぶきのさしも草

かくとだに えやはいぶきの さしもぐさ

52

藤原道信朝臣

明けぬれば暮るるものとは知りながら

あけぬれば くるものとは しりながら

53

右大将道綱母

なげきつつひとりぬる夜の明くるまは

なげきつつ ひとりぬるよの あくるまは

54

儀同三司母

わすれじの行く末まではかたければ

わすれじの ゆくすゑまでは かたければ

55

大納言公任

滝の音は絶えて久しくなりぬれど

たきのおとは たえてひさしく なりぬれど

56

和泉式部

あらざらむこの世のほかの思ひ出に

あらざらむ このよのほかの おもひでに

57

紫式部

めぐりあひて見しやそれともわかぬま  
に

めぐりあひて みしやそれとも わかぬまに

58

大式三位

ありま山ゐなの笹原風吹けば

ありまやま ゐなのささはら かぜふけば

59

赤染衛門

やすらはで寝なましものをさ夜ふけて

やすらはで ねなましものを さよふけて

60

小式部内侍

大江山いく野の道の遠ければ

おほえやま いくののみちの とほければ

61

伊勢大輔

いにしへの奈良の都の八重桜

いにしへの ならのみやこの やへざくら

62

清少納言

夜をこめてとりのそらねははかるとも

よをこめて とりのそらねは はかるとも

63

左京大夫道雅

いまはただ思ひ絶えなむとばかりを

いまはただ おもひたえなむ とばかりを

64

中納言定頼

あさぼらけ宇治の川霧絶え絶えに

あさぼらけ うちのかはぎり たえだえに

65

相模

うらみわびほさぬ袖だにあるものを

うらみわび ほさぬそでだに あるものを

66

大僧正行尊

もろともにあはれと思へ山桜

もろともに あはれとおもへ やまざくら

67

周防内侍

春の夜の夢ばかりなる手枕に

はるのよの ゆめばかりなる たまくらに

68

三条院

こころにもあらでうき世にながらへば

こころにも あらでうきよに ながらへば

69

能因法師

あらし吹くみむろの山のもみぢ葉は

あらしふく みむろのやまの もみぢばは

70

良暹法師

さびしさにやどを立ちいでてながむれば

さびしさに やどをたちいでて ながむれば

71

大納言経信

夕されば門田の稲葉おとづれて

ゆふされば かどたのいなば おとづれて

72

祐子内親王家紀伊

音に聞きたかしの浜のあだ波は

おとにきく たかしのはまの あだなみは

73

権中納言匡房

## 高砂のをのへの桜咲きにけり

たかさごの をのへのさくら さきにけり

74

源俊頼朝臣

## うかりける人を初瀬の山おろし

うかりける ひとをはつせの やまおろしよ

75

藤原基俊

## ちぎりおきしさせもが露を命にて

ちぎりおきし させもがつゆを いのちにて

76

法性寺入道前関白太政大臣

## わたの原漕ぎいでて見ればひさかたの

わたのはら こぎいでてみれば ひさかたの

77

崇徳院

## 瀬を早み岩にせかるる滝川の

せをはやみ いはにせかるる たきがはの

78

源兼昌

## 淡路島かよふ千鳥の鳴く声に

あはぢしま かよふちどりの なくこゑに

79

左京大夫顕輔

## 秋風にたなびく雲の絶え間より

あきかぜに たなびくくもの たえまより

80

待賢門院堀川

## 長からむ心も知らず黒髪

ながからむ ころもしらず くろかみの

81

後徳大寺左大臣

## ほととぎす鳴きつるかたをながむれば

ほととぎす なきつるかたを ながむれば

82

道因法師

## 思ひわびさても命はあるものを

おもひわび さてもいのちは あるものを

83

皇太后宮大夫俊成

## よのなかよ道こそなけれ思ひ入る

よのなかよ みちこそなけれ おもひいる

84

藤原清輔朝臣

## ながらへばまたこの頃やしのばれむ

ながらへば またこのごろや しのばれむ

85

俊恵法師

よもすがらもの思ふ頃は明けやらで

よもすがら ものおもふころは あけやらで

86

西行法師

歎けとて月やはものを思はする

なげけとて つきやはものを おもはする

87

寂蓮法師

むらさめの露もまだひぬまきの葉に

むらさめの つゆもまだひぬ まきのはに

88

皇嘉門院別当

なには江のあしのかり寝のひとよゆゑ

なにはえの あしのかりねの ひとよゆゑ

89

式子内親王

玉の緒よ絶えなば絶えね長らへば

たまのをよ たえなばたえね ながらへば

90

殷富門院大輔

見せばやな雄島のあまの袖だにも

みせばやな をじまのあまの そでだにも

91

後京極摂政前太政大臣

きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに

きりぎりす なくやしもよの さむしろに

92

二条院讃岐

わが袖は潮ひに見えぬ沖の石の

わがそでは しほひにみえぬ おきのいしの

93

鎌倉右大臣

よのなかは常にもがもななぎさ漕ぐ

よのなかは つねにもがもな なぎさこぐ

94

参議雅経

み吉野の山の秋風さ夜ふけて

みよしのの やまのあきかぜ さよふけて

95

前大僧正慈円

おほけなくうき世の民におほふかな

おほけなく うきよのたみに おほふかな

96

入道前太政大臣

花さそふ嵐の庭の雪ならで

はなさそふ あらしのにはの ゆきならで

97

権中納言定家

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに

こぬひとを まつほのうらの ゆふなぎに

98

従二位家隆

風そよぐならの小川の夕暮は

かぜそよぐ ならのをがはの ゆふぐれは

99

後鳥羽院

人も惜し人も恨めしあぢきなく

ひとをし ひともうらめし あぢきなく

100

順徳院

ももしきや古き軒ばの忍ぶにも

ももしきや ふるきのきばの しのぶにも